戦国ロマン片岡城 最終回

問 問合先

5 片岡城と片岡氏のその後

関川尚功（上牧町教育委員会 文化財専門員）

問 社会教育課　TEL76-2532

天正5（1577）年の明智光秀を主将とする織田方と松永方の片岡城での戦いで、松永氏が滅びたことにより、片岡城はようやく片岡春之（かたおかはるゆき）の城に戻ったと思われました。しかし、天正8（1580）年、織田信長の一国一城令によって、大和では筒井順慶が入る郡山城以外の城や砦をすべて破却することになりました。片岡城もおそらく解体されて城としての役目は終わったようです。

しかし、その2年後の天正10（1582）年、明智光秀が織田信長に対して、突如謀反を起こします。本能寺の変です。このときは光秀と共に片岡城で戦った細川幽斎（ほそかわゆうさい）・忠興（ただおき）父子や筒井順慶（つつい じゅんけい）もさすがに光秀の側につくことはありませんでした。こうして細川父子や筒井順慶も豊臣秀吉の配下になりますが、筒井順慶は天正12（1584）年に病死します。そのあと秀吉は順慶の後継ぎの筒井定次（つつい さだつぐ）を伊賀上野へ国替えをして、郡山城へは弟の豊臣秀長（ひでなが）を大和・紀伊・和泉を治める城主として送り込みます。近畿は秀吉・秀長の「豊臣兄弟」の直接の支配下に入ります。この時、大和武士たちの多くは筒井定次に従って伊賀へ移ったようですが、片岡春之は残った大和武士と共に豊臣秀長に仕えることになりました。

しかし、秀長・秀吉が没した後、慶長5（1600）年の関ヶ原の戦いののち、豊臣方は一掃され、徳川の天下になります。そして、慶長19（1614）年、徳川家康は大坂城の豊臣秀頼（ひでより）を攻める大坂の陣を起こします。この時、片岡春之は豊臣方に付き、ほかの大和武士と共に大坂城に立てこもります。戦国武士としての片岡氏の最後の戦いは大坂城だったのです。そして、豊臣氏の滅亡とともに、大和武士たちは四散して、片岡春之も王寺村にひきこもったといいます。こうして平安後期以来、長らく大和で活躍した片岡・筒井などの大和武士は歴史の上から姿を消すことになりました。

しかし、毎年年末に行われる大和最大の行事として知られる春日若宮おん祭には、かつてこの祭りに奉仕した大和武士たちの行列が登場します。片岡氏ら大和の戦国武士たちの面影は、このおん祭の中に残っています。

片岡春之が仕えた豊臣秀長像

春日若宮おん祭　大和士（やまとざむらい）の行列